

第6学年 異文化理解 Let's make original Karuta and play it!

教育学研究科 学習科学専攻 学習開発基礎専修 福山 理

1 はじめに

私がこの体験型海外教育実地研究のことを知ったのは、大学院の同じ学科の先輩の紹介によるものであった。当時、私はこの大学院生活の中で普段はできないような特別な体験をしてみたいと思っていた。また、英語の教師を目指していることもあり、英語力を高めながら指導力の向上を行うことや海外の学校はどういうものなのかといったことについても関心があった。そんな時、先輩からこのプログラムのことを教えてもらい、活動の趣旨にとっても魅力を感じるとともに、アメリカの小中学校で授業をするというのはとても貴重な経験になるはずだと思い、参加を決めるに至った。

2 実地研究の日程と概要

	Transportation	Activities	Lodging
5/10 (木)	渡航までの日程の確認 パスポートの確認 ESTA・保険等の確認 授業テーマの設定		
5/25 (木)	学習指導案の検討		
6/9 (木)	学習指導案の検討		
6/30 (木)	学習指導案の検討 渡航のための諸手続き		
7/9 (土)	第7回学校間国際交流フォーラム		
7/10 (日)	学習指導案発表会		
7/29 (金)	学習指導案の検討 ESTA・保険等の確認		
9/3 (土)	直前打ち合わせ ESTA・保険等の確認		
9/12 (月)	直前打ち合わせ・渡航準備		
9/17 (Sat)	Hiroshima0745→0925 Narita (NH-3112) Narita1105→1040 Washington Dulles (NH-2) Washington Dulles1235→1340 Raleigh (NH-7144) RDU Airport→City Hotel & Bistro (Dr. John Tucker arranged vehicles and drivers for us.)		<u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 Tel: 877-271-2616 Greenville
9/18 (Sun)	Dr. Sandra Warren arranged the transportation for us.	<ul style="list-style-type: none"> • Preparation of lesson • Meeting with teachers of each school • Shopping at Wall Mart • Attending welcome party 	Greenville
	City Hotel→Each school	<ul style="list-style-type: none"> • Visiting at C.M. Eppes 	

9/19 (Mon)	(Dr. Sandra Warren arranged the transportation for us.)	J.H.S. and observing some classes • Shopping at Wall Mart	Greenville
9/20 (Tue)	City Hotel→Each school Transportation; Dr. Sandra Warren arranged the transportation for us.	• Visiting at C.M. Eppes J.H.S. and teaching the class • Having lunch at ECU restaurant • Visiting at Resource Center in ECU, ECU book store, and Teaching material shop	Greenville
9/21 (Wed)	City Hotel→St.Peter's Catholic School→Clarion State Capital (Dr. Sandra Warren arranged the transportation for us.)	• Visiting at St. Peter's Catholic School and observing some classes. • Visiting at some kinds of museums.	<u>Clarion State Capital</u> 320 Hillsborough St. Raleigh, NC Tel:919-832-0501 Fax:919-833-1631
9/22 (Thu)	Transportation ; On foot	• Eating breakfast at the cafe • Visiting at Exploris M.S. (6-8) and observing some classes • Visiting some kinds of museums	Raleigh
9/23 (Fri)	Hotel→RDU Airport ; Taxi Raleigh 1025→1130 Washington Dulles (NH—7145) Airport→Hotel ; Taxi Hotel→Pentagon City Mall ; Subway	• Traveling to Washington DC • Shopping at Pentagon City Mall	<u>Washington Plaza</u> 10 Thomas Circle N.W. Washington, DC 20005 Tel:202-842-1300 800-424-1140 Fax:202-371-9602 Washington DC
9/24 (Sat)	Transportation ; On foot	• Studying on the American Culture at Historical Places (the White house, the Capitol, and so on) • Visiting at some kinds of	Washington DC

		museums	
9/25 (Sun)	ホテル→ワシントンダレス空港 (タクシー)		
9/26 (Mon)	ワシントンダレス空港→成田空港(NH-1) 成田空港 1630-1805 広島空港(NH-3111) 解散		

3 実地研究授業

3.1 単元等名 第6学年 異文化理解 「Let's make original Karuta and play it!

3.2 事前準備

本単元では、日本の伝統的な文化の一つであるかるたを題材として設定した。というのも、かるたは視覚的な楽しみがあるだけでなく、異文化理解の教材としても有効ではないかという思いが以前からあったためである。また、子どもたちにかるたを作成してもらう中で新たな発見があると同時に、他の子どもたちと一緒に楽しむことができることが大きな魅力だと考えた。

題材として設定した後、かるたの特徴やルールについて見直しを行い、理解を深めていった。その際、日本語では理解しやすいかるたを英語表記で行う場合にはいくつかの難点があることがわかった。英語は文章を大抵横書きに書くため、かるたの向きはどのように設定すればいいのかという点や、子ども同士で同じようなかるたを書いてしまい、独創性が失われないかという点である。そこで、かるたの向きを予めこちらで設定するとともに、かるた一枚一枚に頭文字となるアルファベットを記入しておき、一人の子どもが自分の担当となるアルファベットからお題を考えられるようにした。そうすることで、子どもたちがかるたの向きに困惑することがなくなるとともに、少なくとも 26 種類のかるたを作成することができる考えた。

そして、それらを踏まえ画用紙を子どもたちが扱いやすい大きさに切って、授業で使うかるたとして作成し、子どもたちがかるたの作成を楽しめるように様々な色のカラーペンや色鉛筆を購入した。また、子どもたちにとって見本となる英語版のかるたを数セット作成して授業に備えた。

3.3 学習指導案

Lesson Title : Let's make original Karuta and play it !

Lesson Author : Osamu Fukuyama

Date : September 2011

Grade level : 6th in Middle School

Subject : Culture

Description : In this class, students learn Japanese culture through using Karuta. They each make original Karutas which explain famous thing in North Carolina and the United States. They can also notice and reconfirm the culture where they live.

Objectives :

- The students can be interested in Japanese culture and enjoyment through playing Karuta.
- They can know and reconfirm their own cultures through making original Karuta.

Materials, Resources and technology : sketchbook, some pictures in Japan, Japanese Karuta, some cards for making Karuta, some marker pens and color pencils, some prizes (souvenir)

Activity	Instruction of teacher	Materials
1. Greeting • Self-introduction • Talk about Japanese customs	Introduce myself and Japanese customs to the students through using the sketchbook and pictures.	• Sketchbook and some pictures which introduce Japanese customs.
2. Introduction of Karuta	Show Japanese Karuta and Original Karuta which the teacher made in English. Then demonstrate how to play it.	• Japanese Karuta • Original Karuta written by English
3. Make original Karuta in each groups	Distribute two cards to each students. Let each student to make the sentence and the picture. They write about famous thing in North Carolina and the United States.	• Cards for making Karuta. • Some marker pens and pencils
4. Enjoy playing Karuta in the class	Arrange the class to surround Karuta and start playing Karuta. The teacher reads sentences which the students made.	• Karuta made by the students
5. Recognize the winner who has most Karutas	Admire not only the winner but also all the students who joined playing Karuta.	• Some prizes which is Japanese souvenir
6. Review	Review and talk about the impression of the lesson.	

3.4 授業の実際

まず始めに自己紹介を行い、次に日本の文化について紹介した。京都や広島の世界遺産の写真を提示し、どういうものか一つ一つ説明を行っていた。子どもの多くが初めて見る日本の写真に興味を持っていた様子であり、手を挙げて質問を行う子どももいた。

それから、かるたについて説明を行った。かるたとはどういうもので、どのように行うのか、絵札用と文章用のかるたを見せながら説明を行っていくとともに、かるたを床に並べ実演しながら説明を行っていった。次に子ども一人ずつに二種類のカードを渡し、一つは文章用、もう一つは絵札用といったことを説明してかるたを作成してもらった。子どもたちはじっくりと自分が書くかるたのお題を考え、意欲的にかるたの作成に取り組んでいた。そして子どもたちが作成し



写真1 かるたを説明している様子

たかるたを用いて全員でかるたを行った。多くの子どもたちが積極的にかるたに取り組み、楽しんでいる様子が見られた。最後に、一番多くかるたを手に入れた子どもに賞品として日本のポケモンのかるたセットをプレゼントするとともに、授業に参加したすべての子どもたちの努力をねぎらい、授業を終えた。

3.5 考察

成果としては、かるたを通じて子どもたちにとって当たり前ものとなっているアメリカの文化について考えさせることができたとともに、かるたをととても楽しんでくれたことである。多くの生徒が楽しみながらかるたを作成し、早くできた子どもやもっと作りたい子どもは二枚目、三枚目と次々かるたを作成していった。それによって、かるたは実際に行う楽しみだけでなく作る楽しみもあり、教材として有効であることを実感することができたと思う。



写真2 かるたをしている様子

課題として、かるたを作成するときにルールを十分に理解できていない子どもが数名いたことである。説明する際に、子ども一人一人がかるたの作成をイメージできるようにじっくり時間をかけて説明を行うことが必要であった。また、かるたを行う時に輪の中に入れなかった子どもが数名いたことも反省点である。かるたを行う前に十分なスペースを確保するとともに、かるたを行うやる気や雰囲気子どもたち全員に出させることが教師として必要であった。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

私はアメリカの子どもたちはとてもにぎやかで自由なイメージを持っていたが、学校訪問等を通じてその印象は大きく変わった。校内での規律はしっかりと守られ、生徒が授業に取り組む姿勢もとても真剣なものであったと思う。特に授業が終了してすぐ次の授業に向かうことや、廊下を歩く時も列になって歩くといった姿を見た時はとても感心した。これらは日ごろから教師によってきめ細やかな指導が図られているとともに、子ども自身も自覚を持って学校生活を送っていることの表れであると感じた。

授業観については、私はこれまで英語科の授業を数回行ってきたことはあったものの、授業のすべてを英語で行うことは今まで経験がなかった。そのため授業前はとても緊張し、授業が上手くいくか、子どもたちはかるたを楽しんでくれるかといった不安が強かったように思う。しかし、子どもたちは日本の文化やかるたについてとても興味を持ってくれ、活動にも積極的に取り組んでくれたことは大きな収穫であったと思う。

学校観については、公立・私立の小中学校への訪問などを通してそれぞれの学校が目標とする学校経営のビジョンや育てたい子どものあり方について実感することができた。特に私が授業を行った中学校では子どもの立場に立った授業展開がよく考えられていたように思う。子どもたちが知らないことに関してはどういう興味付けができるのか、また既習の知識に関してはどのように新たな観点を持たせるのかといったことを教師自身が自覚する必要があるといった

ことが授業の中で実践されているように感じた。

4.2 自分自身についての変容

当初、アメリカという国について一方的なイメージしか持っていなかったものの、アメリカでの様々な異文化体験を通じて言語や食事、気候といった多くのものが日本と異なっているのを実感し、それらを楽しむことができたように思う。また、多くの歴史的な場所や博物館などを訪れ、アメリカがたどってきた歴史やその大きさについてもとても興味を持つことができた。特にホワイトハウスや国会議事堂といった世界的にも有名な場所を訪れた時は、その壮大さに衝撃を受け、英語をもっと勉強してまたここに来たいと強く思うことができた。

一方、数々のアメリカ人と会話をする中で英語が聞き取りにくい場面が多々あった。そんな時に、表情やボディランゲージといった非言語的な動作がいかにか有効かを実感した。私は英語でコミュニケーションを行う場合、できるだけ正確な文法や文章で話さなければいけないと深く考え過ぎてしまうことがよくある。しかし、あくまで英語は一つの言語でありコミュニケーションのための手段であるため、日本語と同様に気軽に楽しむ気持ちで向き合うべきだと考えることができた。

4.3 グローバルマインドに関する変容

この約10日間のアメリカでの生活を通して、様々な学校や博物館、商業施設といったものを訪れ、アメリカ人の温かみや食事や文化、風土の違いといったことについて感じる事ができた。それらは日本で生活しているだけでは決して体験することができないことであり、異文化に対する見識やその理解について考えることができたように思う。また、様々な人種が共存している様子を見て、改めて平和な社会と他者を認め合う環境といったものが求められることについても目を向けることができた。

また、多くのアメリカの人たちとの触れ合いを通して、日本人として海外に目を向けることの大切さを実感させてもらったように思う。海外に行って実際にその地の人たちの生活に触れ、交流できるということは外国語学習の大きな醍醐味である。自分が教師になってからも、英語の持つ楽しさや英語が使えることで自分の世界が広がるということ子どもたちに伝えていきたいと強く感じた。

5 おわりに

短期間ではありましたが、このプログラムを通じて自分自身大きく成長できたのではないかと思います。特に、アメリカの小中学校を訪問することができただけでなく、そこで授業をさせてもらうことができたことは、一生の中でも二度と体験できるものではないと思います。これらは自らの教師観を広げるだけでなく、海外に目を向けるということの意味、英語力の必要性といったものについても考えるきっかけを与えてくれました。本当に貴重な経験ができたと思います。

最後に、このプログラムを支えて下さった先生方や友人たちに心から感謝したいと思います。自分だけの力では決してこのような充実した時間を過ごすことはできませんでした。このプログラムで学んだことを大きな糧にしてこれからの生活や教育現場で生かしていきたいと思いません。本当にありがとうございました。